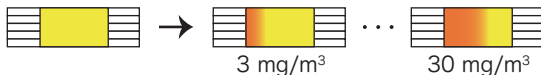


# DT15

 マスタード(H、HD)


実寸(約10cm)

感度	3 mg/m <sup>3</sup>
吸引量	ハンドポンプ 30 回吸引(1 回 100 mL), 自動ポンプ 3 リットル(3L)
色変化	マスタードが存在する場合: 黄色からオレンジ～赤色に変色します。 
反応原理	マスタード[mustard]と4,4'-ビス(ジエチルアミノ)ベンゾフェノン[4,4'-bis(diethylamino)benzo-phenone]および過塩素酸マグネシウム[magnesium perchlorate]の付加錯体生成
解説	検知管は色素原試薬(エチルミヒラーケトン[ethyl Michler's ketone]、過塩素酸マグネシウム[magnesium perchlorate])を含浸させたシリカゲルの指示層1つで構成されています。 色変化がない場合、1 時間以内に限り最大5 回まで再使用可能です。
検出方法	①検知管の両端を折る。 ②ハンドポンプで30 回(1 回 100 mL)または自動ポンプで3L 空気を送る。 ③色の変化を確認する。
選択性	すべてのタイプの硫黄マスタード[sulphur mustards]は、他の塩素化アルキル硫化物[chlorinated alkylsulphides]と同様に、この検知管で検出できます。すべてオレンジ色になります。 ホスゲン[phosgene](ジホスゲン[diphosgene])およびその他のアシル化剤[acylation](塩化アセチル[acetyl chloride]、塩化ベンゾイル[benzoyl chloride])が 20 mg/ m <sup>3</sup> を超える濃度で存在すると、緑色になります。
干渉性	高濃度の塩化水素[hydrogen chloride]やアンモニア[ammonia](同様に酸性ガスやアルカリ性ガス)で指示層が変色する可能性がある。
温度	10～50 °C ( 10 °C以下では加熱が必要 )加熱するとより高い感度を示します。
湿度	検知管の公称感度は、相対湿度が 90 % を超えても低下しません。